



IELTS Writing スコアアップ

文法・語法ルール

第2章

IELTS必須！スコア7.0突破のための
文法・語法ルール30を完全マスター！

ライティングの評価基準において、文法と語法の割合は合計50%を占めるため非常に重要です。しかしながら、知識はあってもいざ書いてみると気づかぬうちにミスを犯しているケースがよくあります。ここでは、IELTSでよく見られるミスや重要な項目を「文法編15」「語法編15」の2つに大きく分けて厳選しました。効果的な活用方法としては、

①一読する → ②エッセイを書く → ③再読してセルフチェック
という流れです。何度も繰り返すことで自動的に正確に運用できるようになります。まずは「文法編」からです。それでは早速まいりましょう！

これだけは絶対守ろう！最重要「文法」トップ15

◆第1位—For exampleの後ろにSVを従えているかを確認せよ！

for example [instance] は副詞扱いのため、文頭で使う場合 “**For example, S V.**” の構造が原則です。よって次のような名詞を例挙した英文は誤りです。

[×] When choosing a job, people consider a number of factors. **For example, salary, employee benefits and location of the workplace.**
▶名詞の例挙は不可。

よって次のように変える必要があります。

→ [○] When choosing a job, people consider a number of factors. **For example, they should factor in** salary, employee benefits and location of the workplace.
▶ SVを従える。

(仕事を選ぶ際は、いくつかの項目を考慮する。例えば、給与、福利厚生、勤務地などである)

のことから、for example を文頭で使う際は SV が来ているか毎回確認してください。ただし、次のように文頭ではなく挿入的に使うことは可能です。

→ [○] There are eight planets in the solar system, **for example**, Mars, Jupiter and the Earth.

(太陽系には8つの惑星がある。例えば、火星、木星、地球などである)
▶《SV, for example, 名詞》の形が原則。

◆第2位—HoweverとThereforeは副詞！接続詞としては使用不可!!

この2語は接続副詞と呼ばれ、前に紹介した for example と同じ副詞です。よって接続詞としての使用は不可です。まず however を用いた次の英文は誤りです。

[×] Robots bring numerous benefits, **however**, it can cause trouble.

(ロボットは多くの恩恵をもたらすが、問題を引き起こすこともある)
▶このように SV はつなげないため、以下の3つの方法で改善が必要です。

① → [○] Robots bring numerous benefits, **but** [(and) yet], it can cause trouble.

② → [○] Robots bring numerous benefits. **However**, it can cause trouble.

③ → [○] Robots bring numerous benefits; **however**, it can cause trouble.

①は but か (and) yet に変える、②は文を一度区切り文頭で However を使う、そして③のようにセミコロンを使う用法です。

同じく therefore も副詞なので、次のように SV 同士をつなぐことはできません。

[×] Robots are increasingly being used in a wide range of industries, **therefore**, the need for human labour will be drastically reduced.

(ロボットは幅広い業界で利用が増えている。したがって、人的労働力の必要性は大幅に減ることになる)

代替表現としては、“**, and therefore**”にするか、一度文を切ってから、文頭で Therefore や For this [these] reason(s) を使うとよいでしょう。

👑 第3位 — 可算名詞と名詞の使い分けに注意！

ほとんどの名詞は可算名詞と不可算名詞の用法があり、英英辞典では可算名詞は **C (Countable noun)**、不可算名詞は **U (Uncountable noun)** と表記されています。例えば **work** は「仕事、作業」の意味では **U** ですが、**C** では「芸術作品」、**content** は「内容、コンテンツ」の意味では **U**、「目次、中に入っている物質」の意味では **C** です。また、中には不可算名詞用法しかない語彙もあり、**garbage** (ゴミ)、**software** (ソフトウェア) などはその代表例です。以下に IELTS で運用する機会が多く、ミスを犯しやすい不可算名詞を集めました。一部例外はあります (例 : **information, aid**) これらの語は **a / an** が付いたり、複数形になりません。これらの語を使う際は特に注意して運用しましょう！

カテゴリー	不可算名詞一覧
最重要	data / evidence / research / news / information / advice / support / homework / traffic / damage / health / garbage / staff
必須	knowledge / leisure / travel / training / entertainment / advertising / pressure / equipment / transport / accommodation
ワンランク UP	feedback / motivation / progress / access / appearance / wisdom / satisfaction / employment

ちなみに、可算名詞と不可算名詞の見分け方の主な基準は「**触れられるか**」と「**絵に描けるか**」の**2つ**です。いくつか抜粋すると **energy, support, peace, furniture** は触れることや、絵にかくこともできませんね。いや **furniture** はそうでないだろう？と思われるかもしれません、それは椅子や机など個別の種類を指す場合であって **furniture** 自体を描くことはできません。このような観点から考えることで覚えやすさもグーンとアップしますので参考になさってください。

👑 第4位 — such as や like を使う時は、名詞が一致するか確認せよ!!

この2語は具体例を挙げる際に便利な表現ですが、用法に注意が必要です。次の英文は **such as** の使い方が誤りなので、改善方法を考えてみてください。

[✗] Governments should spend more money **such as** healthcare and education.

わかりましたか？ **《A such as [like] B》** とする場合、**A** は **B** を包括する語でなければいけません。言い換えると、**B** は **A** の一例でなければいけません。例えば、**play team sports such as [like] football and basketball** であれば **football** や **basketball** は **team sports** の一例であり、かつ **team sports** はこの2語を包括する語ですね。

しかしながら、この文では **such as** 以下の **health** と **education** を包括する名詞がないため、それを次のように包括語を補えば正確な文に変わります。

→ [○] Governments should spend more money on **public services** such as healthcare and education.

➢ **health** と **education** を包括する **public services** (公共のサービス) を入れることで **A such as B** が成り立ちますね。

(政府は、医療や教育といった公共サービスにより資金を使うべきである)

👑 第5位 — 「手段」を表す by を使う場合は細心の注意を払え！

「～によって」は、英語では文脈によって、**by, through, with, due to** と多く、**by** は「手段」、**through** は「～することによって〔経て〕」、**with** は「～を用いて」、**due to** は「～のせいで」の意味となります。

1. by + 「無冠詞の名詞」

これは熟語的に使われ、**by bus** や **by phone**, **by land** (陸路で), **by vote** (投票で), **by rote** (暗記で), **by instinct** (本能で) などの定型表現が一般的です。

2. by doing のように後に動名詞を従える

[✗] Children can learn logical thinking **by maths**. ➢ 名詞は不可
→ [○] Children can learn logical thinking **by studying maths**. ➢ 動名詞で書く
(子供は、数学を学ぶことによって論理的思考を身につけることができる)

よってこれらの用法以外で **手段** を表す際は **by** ではなく、**through** (～を通じて、～の助けを借りて) を用いられることが多くなります。

• Crime can be reduced **through [by]** education.

(犯罪は教育によって緩和される)

また、「～の力を借りて」といったように、特定の手段、方法、人の力などを強調したい場合は、**via**（～を用いて、介して）を用います。

- Business meetings should take place **via** video conferencing.
(仕事の会議はビデオ会議で行われるべきである)

◆ 第6位 — 定冠詞の有無に注意せよ！

何の根拠もなくなんとなく名詞に **the** を付ける人が多くいますが、ネイティブにとっては名詞を特定するための重要な目印であり、日本人が考えるより大きな役割を持っています。例外が多いのですべてカバーできませんが、原則として **the** を付ける場合は「前に登場した名詞」「1つしか存在しない名詞」「読み手も理解している名詞」です。ここではこれ以外の原則 **the** が必要な IELTS で重要な名詞一覧を紹介します。何度も見返して運用力を高めていきましょう。

定冠詞 **the** が必要な名詞一覧

分類	語彙
宇宙	the universe / the Sun / the Earth / the Solar System <small>※</small>
環境	the environment / the sky / the weather / the ocean / the equator / the atmosphere / the sea / the food chain / the natural world
特定の集團（形容詞に the を付ける）	the rich / the elderly / the famous / the unemployed / the educated (教養人) / the socially disadvantaged (社会的弱者) / the underprivileged (恵まれない人々)
年代、期間、時代	the 21st century / in the 1990s / at the beginning [end] of ~ / the Stone Age / in the modern world / in the digital [information] age
特定の（歴史上の）出来事	the Olympics [= the Olympic Games] / the Industrial Revolution / the Second World War <small>***</small>
特定の区分、層	the age group (年齢層) / the low-income bracket (所得階層) / the ~ industry [sector] / the working population (労働人口)
特定の国名	the UK / the US(A) / the Philippines / the Netherlands
臓器、器官	the brain / the heart / the nervous system (神経系)
その他	the same / the internet / the case / the truth / the fact / the rest
対の要素を表す物	the past ⇔ the present ⇔ the future the North Pole (北極点) ⇔ the South Pole (南極点)

* これ以外の惑星は無冠詞で表す。(例：Mars 「火星」／Jupiter 「木星」)
** は World War Two も可。

◆ 第7位 — 何についての **Firstly, Secondly** かを明確にせよ！

これは理由や具体例を述べる際に、何に関しての **First(l)y** や **Second(l)y** なのかが書かれていないミスを指します。その例をご覧いただきましょう。

- [△] I believe that students should focus on studying philosophy. **Firstly**, they can learn practical skills like reasoning and problem-solving.

▶ 何が **Firstly** か不明。

つまり **Firstly** 以下が何の一つ目のなのか（理由、何かの側面、メリットなど）が不明瞭なので、以下のようにカテゴリーを明確にすれば文が改善されます。

- [○] I believe that students should focus on studying philosophy **for several reasons**. **Firstly**, they can learn practical skills like reasoning and problem-solving.

▶ **for several reasons** を付けると、**Firstly** が一つ目の理由、ということを明確化。(いくつかの理由で、学生は哲学を学ぶことに焦点を置くべきだと強く思います。一つ目は、論証力と問題解決能力といった実践的なスキルを身につけることができるからです)

特にパラグラフの最初で **Firstly** のように始めがちな方は、The first **reason [advantage / point]** is のように項目を明確にして書く習慣をつけましょう。

◆ 第8位 — government にはすべて the が付くとは限らない！

Task 2 では「政府が～すべきである」のように書くことがよくありますが、次のように機械的に **government** に the を付けるのは避けてください。“the government” とできるのは、中央政府を指す場合、**どこの国**の政府か、**地域の自治体**かが文脈上明白な場合です。それ以外の場合は次のようにどこの政府かを明確にして書きます。

- [○] The Japanese [UK] Government should make recycling a legal requirement.
- [○] In Japan [the UK], the government should make recycling a legal requirement.

(日本 [イギリス] 政府はリサイクルを法令にするべきである)

よって、一般論で「政府は」と書く場合は、次のように複数形で表してください。

- [○] Governments should make recycling a legal requirement.

◆ 第9位 — Tautology (類語反復) に要注意！

突然ですが問題です。次の英語はどこに誤りがあるか考えてください。少しチャレンジングですがトライしてみましょう！

- (1) The company has invested in new technological innovations for years.
- (2) The number of the world's population has more than doubled over the last 50 years.

答えは(1)は **new** が不要、(2)は **The number of** が不要、となります。まず(1)は **innovation** という単語に **new** の意味が含まれているため **new** が重複しています。同じく(2) **population = the number of people** であり、**population** 自体に **number** が含まれているため不要です。このようなよく似た意味の語を繰り返してしまうことを **tautology** (類語反復) や **redundancy** (冗長) と言います。日本語でも「もう一度繰り返す」は「繰り返す」という語に「もう一度」の意味が含まれているため冗長ですね。以下に **tautology** の代表的なミスを挙げておきます

ので、確認しておきましょう。

- [✗] today's modern → [○] modern
- [✗] current trend → [○] trend
- [✗] completely destroy → [○] destroy
- [✗] foreign import → [○] import
- [✗] discover a new cure → [○] discover a cure
- [✗] different kinds of → [○] different / a variety of
- [✗] The reason is because ~ → [○] The reason is that ~
- [✗] In my opinion, I believe ~ → [○] In my opinion, ~

◆ 第10位 — 勝選スペリングミスをチェック！

正しいスペリングは文法の評価基準で非常に重要です。以下に特に重要な項目を厳選しました。しっかりと確認してミスを最小限に減らしましょう。

項目	例・解説
動詞と名詞で紛らわしい語	動 maintain → 固 maintenance 動 pronounce → 固 pronunciation
複合語で間違えやすい語	✗ work-force ○ workforce ✗ birth-place ○ birthplace ✗ work-place ○ workplace ✗ life-style ○ lifestyle
単／複で混同しがちな語	固 hypothesis 固 hypotheses / 固 crisis 固 crises 固 phenomenon 固 phenomena / 固 syllabus 固 syllabi 固 curriculum 固 curricula / 固 criterion 固 criteria
混同しやすい語	· every day 毎日 everyday 每日の · human 人間の humans 人間 · sometimes 時々 some time / sometime そのうち · content コンテンツ contents 内容、中に入っているもの · dependent 依存している dependant (子供の) 被扶養者
その他 (テスト前に必ずチェック！)	accommodation / absent / accelerate / acquire / rhythm / acquaintance / commitment / discipline / environment / government / particularly / psychology / parallel / species / occurred / address / entrepreneur / questionnaire / conscious

もしタイピングを練習される場合は、**スペルチェック機能を必ずオフにしてください**。そして、エッセイを書き終わったらオンにしてミスがないかを確認すればよいでしょう。また、表記はイギリス英語、アメリカ英語のどちらを用いても構いませんが、混在しないように統一して書くように心がけてください。

◆ 第11位 — the と its の違いに注意！

この2語は誤って使うと読み手を混乱させてしまいます。《the + 名詞》は前述の語を、一方《its + 名詞》は「前述の語が持っている」という所有を表す代名詞です。次の例で確認しておきましょう。

- Kyoto is famous for its [× the] rich history.

(京都は豊かな歴史で有名である)

▶ 「Kyoto が持っている豊かな歴史」という意味なので所有の its。

- I visited a lot of tourist attractions when I went to the UK last year. For me, the best one was the British Museum in London, but the site was packed with tourists.

(昨年イギリスに行ったとき、多くの観光地を訪れた。一番よかったのは大英博物館だが、観光客で溢れかえっていた)

▶ the site は the British Museum を指します。its site だと意味が不明です。

では最後に2つの要素が入った英文をご覧いただき、さらに理解を深めましょう。

- I enjoyed an incredible firework display in Sydney ten years ago. The show was truly amazing and I can still remember its vivid spectacle.

(10年前、シドニーで感動的な花火を楽しんだ。そのショーは本当に最高で、今でもそのままゆい光景を覚えている) * vivid spectacle 「まばゆい光景」

▶ The show は前述の “firework display” を、そして its は「その (= それが持っていた) 光景」を指します。

◆ 第12位 — despite, in spite of, due to, because of は全て前置詞扱い！ 名詞を従えているかを確認せよ！

これらの4語は at, of, about などの前置詞と同じ役割を果たすので、後ろに名詞を従えるため次のように SV を取ることはできません。

- [×] Despite road networks have been improved, traffic congestion in the city centre is still a problem during the peak hours.

▶ このように 「Despite SV,」 は不可。

(道路網が改善されたにもかかわらず、ピーク時における交通渋滞は依然として問題となっている)

これには2つの改善方法があり、次の例文のように1つ目は **Despite** を接続詞 **Although** や **Even though** に、2つ目は **Despite** 以下を名詞に変える形です。

- [○] Although road networks have been improved, ~
▶ 「Although + SV,」 とする

- [○] Despite the improvement in road networks, ~
▶ 「Despite + 名詞句,」 とする

同じように due to や because of も前置詞扱いのため、SV を取ることができます。使う際は **名詞を従えているか** を確認して運用するようにしましょう。

◆ 第13位 — 日本語に引きずられて過去形を使ってしまうミスに注意！

「…は～した」と表現する際に、日本語につられてすべて過去形で書いてしまうミスが目立ちます。「過去に起こってそれが今も継続している」場合は現在完了形で書く必要があります。次の例で確認しておきましょう。

- [×] Remote learning became popular in recent years.

(遠隔学習は、ここ数年で普及した)

- [×] Social networking changed the way people communicate.

(ソーシャルネットワーキングは、コミュニケーション方法を変えた)

過去形を使うと、昔はそうだったが今はそうでない、のように過去に焦点が当たります。これらは今も状態が継続しているので、次のように書きます。

→ [○] Remote learning **has become** popular in recent years.

▶ 遠隔学習はここ数年で広まり、今も普及している。

→ [○] Social networking **has changed** the way people communicate.

▶ ソーシャルネットワーキングによってコミュニケーション方法が変わり、今もその状態が続いている。

のことから、伝えたい事実が「今も継続しているのか」という点を考慮して時制を選ぶように心がけましょう。

◆ 第14位 — 動作をする主体が明確か毎回確認せよ！

英語では「誰が行為を行うのか」という主体を常に意識し、明確にしなければいけません。例えば次のような英文は改善が必要です。

[△] I believe it is important to teach children good behaviour.

これだと「適切なふるまいを子供に教えるのは誰か」が不明瞭です。よって伝えたい内容によって、次のように主体をはっきりさせることが必要です。

→ [○] I believe it is important **for parents [schools]** to teach children good behaviour.

ですので、文脈から明らかな場合を除き、**動作主が明確か**という点に注意が必要です。

ちなみに、中学で学習する《It is ... for ~ to do》の形ですが、for ~ を「～にとって」と覚えていると運用できません。これはあくまで「～が do することは…だ」のように～は「動作主」として覚えておきましょう。

IELTSでは次のような語がよく動作主として使われるので、要チェックです。

governments / businesses (企業:複数形で使う) / **community** (地域社会) /

individuals (個人) / **charitable [voluntary] organisations** (慈善団体) /

developing [developed] countries (発展途上 [先進] 国) / **schools /**

parents

◆ 第15位 — Wordiness (冗長さ) がないように注意せよ！

Wordiness とは「無駄が多いこと」の意味で、不要な語を多用してしまうことを言い、Verbiageとも呼ばれます。まずは改善が必要な次の英文をご覧ください。

[△] **There are many people who** claim that technology brings huge benefits to the public.

(テクノロジーは人々に大きな利益をもたらす、と主張する人たちが多くいる)

この文は文法、語法ともに正しい文です。しかし、アカデミック・ライティングでは concise (無駄がない = brief and easy to understand) に書くのが原則なので、この文章は **There are** の箇所が不要です。これは日本語につられて訳してしまいかつですが、There are 自体は何の意味もなさず、無駄なので次のように書き換える必要があります。

→ [○] **Many people** claim that technology brings huge benefits to the public.

この文はわずか3語の削減ですが、当然長い文章になればなるほど、conciseな英文が好まれます。この他にもよく見られる wordy な表現を挙げておきますので、○で示した表現に変えて書くようにしましょう。

[△] I am of the opinion that → [○] **I believe that**

[△] Despite [In spite of] the fact that ~,

→ [○] **Although SV**, または **Despite + 名詞句**

[△] As a matter of fact, → [○] **In fact,**

[△] Due to the fact that ~ → [○] **Because ~** または **Due to + 名詞句**

以上で重要文法項目15のレクチャーは終了です。お疲れさまでした。では続けて語法編です。ここでは語彙の運用力をグーンとアップさせるレクチャーを行っていきます。少しブレイクして引き続き頑張っていきましょう！

これだけは絶対守ろう！ 最重要「語法」トップ 15

👑 第 1 位 — first, at first, first of all の使い分けを理解して運用せよ！

この 3 語は意味が似ていますが、次のようにニュアンスや用法が異なります。

▶ first / firstly (第一に)

特定の項目を列挙する際に用いる。つまり **Firstly**, ~. や **The first advantage is** のように出てくると、読み手に **second** や **next** などの語を予期させ、複数の続く項目があることを暗示する働きがある。

▶ at first (最初は)

first と異なり「最初のうちは」という意味で、これ以降に変化を予期させる。例えば「最初は上手くいっていたが、途中から問題が明るみになり…」といったニュアンス。よって、**first** のように具体例を順番に列挙する場合には使わない。

▶ first of all (まず何よりもはじめに)

「最初」を強調した語。スピーチやレクチャーの導入でよく使われるが、**カジュアルなためライティングでは使用不可**。加えて、類語の **in the first place** もインフォーマルなためライティングでは使わない。

👑 第 2 位 — lead to 動詞, contribute to 動詞は不可！

lead to (結果～になる) と **contribute to** (～の一因となる) を使う際、**to** 以下には動詞ではなく、名詞が来ます。次のように原型動詞を置くことはできません。

[✗] Stress can **lead to** increase the risk of heart attacks.

このように動詞は不可なので、次のように名詞に変える必要があります。

→ [○] Stress can **lead to an increased risk** of heart attacks.

(ストレスは、心臓発作リスク上昇につながる可能性がある)

また、次のように動名詞でも可能ですが、名詞の方が圧倒的に多いので、名詞で書く方がよいでしょう。

[△] The measure can **contribute to protecting the environment**.

→ [○] The measure can **contribute to environmental protection**.

(その施策は環境保全の一助となる可能性がある)

👑 第 3 位 — especially は文頭で使わない！

「特に～」と言いたい場合に **Especially**, **SV** のように文頭で使うことはできません。これらは意味が広い包括的な語の中から特定の語を強調して特に、という場合に使われます。次の例のような形が一般的です。

- I love outdoor sports, **especially [particularly]** football and cycling.
▶ **outdoor sports** の中から **football** と **cycling** を強調。

- Financial support should be given to students, **especially [particularly]** **those** from disadvantaged backgrounds.

(経済支援は、学生、特に経済的に困窮した背景を持つ学生になされねばならない)

▶ まず **students** と述べ、どのような学生か絞り込んでいますね。この **those** は **students** と重複を避けるための代名詞でこの形でよく使われます。

よって、文頭で「特に」としたい場合は、**in particular** を使います。

- Online shopping is now widely used by people of all ages. **In particular** [✗ **Especially**], young people are the most frequent user of this service.

👑 第 4 位 — important ⇒ significantへの安易な言い換えに注意！

important を別の語で言い換えようとして、**significant** に置き換える人がよくいますが、これはほとんどの場合不可です。**significant** は **large and important enough** という、**large** の意味合いが強い語で、次のような形でよく用いられます。

- a **significant reduction** [contribution / impact] (大きな減少 [貢献／影響])

よって、単語レベルで、**important** 言い換えるのではなく、**全体の意味を汲んで「重要」を意味する表現を使う**必要があります。以下に **important** に関連した言い

👑 第7位 —「最近」を表す語の使い分けを理解して運用せよ！

「最近」や「今日」を表す語の使い分けは非常に重要です。ここでは各語のニュアンスとフォーマル度をマスターしておきましょう。

使い分け、ニュアンス	
today	「今では」という意味。現在形、現在完了形、過去形で使用可能。他の語と異なり、 today's children のように所有の用法がある。さらにフォーマルにする場合は、 in modern times や in the modern world を使う。
nowadays	「昔と違って今は」という過去と現在の対比を強調する語。(nowadaysは社会的な現象を表すときに使い、同じ意味の these days は個人的な出来事にも使われる)
recently	現在完了形か過去形で用い、強調する場合は most recently のように most を付ける。また、 in recent years とするとさらに固くなる。
lately	recently の話し言葉で、現在〔過去〕完了形で使われる。カジュアルなためライティングでは使わない。
currently	現在進行形、現在形で使用（現在形は be 動詞のみ）。「まさに今その状態が進行中」という現在を強調した語。
now	現在形、現在進行形と使う。「まさに今（= at the moment ）」と「今現在（= at present ）」の両方の用法がある。

ここでの注意点は、文頭でこれらの語を極力使わないことです。例えば、Now, ~. や Today, ~. のようにするとカジュアルに響きます。つまり、Today, young people spend ~. とするよりも、Young people **today** spend ~. のように動詞の前に置くのが一般的です。加えて、Recently [In recent years / Nowadays], ~. のように文を始める人がいますが、多くの受験者が機械的に使いがちで単調です。よって、文頭での使用は避けて書くようにしましょう。

👑 第8位 —「～を知る」の使い分けをマスターせよ！

まず注意点として、know は「～を知る」という意味ではなく、「～を知っている、～に関する知識がある」という状態を表す動詞です。よって、「～を知る」という動作を伝える場合は、別の表現を使わなければいけません。以下によく使うフレーズを挙げておきますので、文脈により使い分けて書くようにしましょう。

・ learn about ~ (～の知識や認識を深める)

▶ learn about different cultures (異文化について知る)

・ acquire knowledge of ~ (～の知識を得る、身につける)

▶ acquire knowledge of research methods (リサーチ方法について知る)

・ develop [gain] an understanding of ~ (～に対する理解を深める)

▶ develop an understanding of global issues (世界の問題に対して理解を深める)

・ become aware of ~ (～を知る、気づくようになる)

▶ become aware of the impact of global warming (地球温暖化の影響に気づく)

・ become familiar with ~ (～に詳しくなる)

▶ become familiar with online learning (オンライン学習に詳しくなる)

👑 第9位 — rate と ratio の使い方に注意！

この2語は Task 1 で、語法のミスが目立ちます。用法と意味を確認しておきましょう。

▶ rate (率)

percentage や proportion は 100% を基準とした「割合」を指しますが、rate は特定の語と一緒に使われ、100% 以外の割合で表されることがあります。例えば、日本の出生率 (**fertility rate**) は 1.38 です (2019)。この他にも以下のようによく使われます。

・ exchange rate (為替レート) / crime rate (犯罪率) / literacy rate (識字率)

▶ ratio (比率)

percentage や proportion の言い換えで使う人が時々いますが、Task 1 で使うことはまずないので避けてください。ration は「比率」という意味で次のように使われます。

- The male to female **ratio** of the company is 3:2.
(その会社の男性と女性の割合は 3 対 2 である)

- The faculty to student **ratio** of the department is 10:1.
(その学科の教員と学生の割合は 10 対 1 である)

よって、rate は設問文にあれば使って構いませんが、percentage, proportion, figure, share の 4 語をメインで使い、原則言い換えて使用しない、と覚えておきましょう。

👑 第 10 位 — art, arts, the arts の違いを理解して運用せよ！

この 3 語は IELTS 必須です。以下の違いを理解して運用するようにしましょう。

▶ art (概念としての芸術、科目としての美術、芸術)

包括的に「芸術」を意味する。芸術科目、美術という意味でも使われる。

- contemporary art** (現代美術) / **study art and music** (美術と音楽を学ぶ)

▶ arts (人文科目：サイエンス系以外の科目)

history, philosophy, language, art, literature が主な科目で、Task 2 では「**サイエンス系の科目とどちらを重視して学ぶべきか？**」といった形でよく問われます。humanities と同じ意味ですが、使い分けは曖昧で「人文学科」という意味では大学により名称が異なります。また、アメリカでは **liberal arts** (リベラルアーツ) が幅広く使われます。これは上記の arts に social sciences (社会科学: politics, law, international relations など) の科目を加えた「教養科目」を意味する語です。

▶ the arts (さまざまな芸術形態、芸術活動)

fine art(s) とも呼ばれ、観賞を目的とした芸術形態を指し、**fund the arts** (芸術への支援を行う) や **arts funding** (芸術への経済支援) の形で決まり文句としてエッセイでよく使います。非常に細かく分類されますが、主に次の区分と代表的な例は覚えておきましょう。

- literature** (文芸：文字化された芸術形態)
 - poetry (詩), novel (小説), creative writing (文芸創作), drama (劇)

- the performing arts** (舞台芸術：聴衆の前で、演者が生で表現する芸術形態)
 - theatre (演劇), dance (ダンス), music (音楽), puppetry (あやつり人形芝居)

- the visual arts** (視覚芸術：観賞物を創作する形態)
 - painting (彩色画), sculpture (彫刻), photography (写真), film(making) (映画)

👑 第 11 位 — reduce と occur の使い方に注意せよ！

この 2 語は用法を誤解して使いがちです。まず **reduce** は「他動詞」(～を減少させる) 用法が一般的です。次の例文をご覧ください。

- [×] Energy consumption is expected to **reduce** next year. ➤ 自動詞用法は不可
→ [○] Businesses should **reduce** energy consumption. ➤ 他動詞用法 (目的語が必要)

続けて **occur** については、次のように受け身で使ってしまうミスがよく見られます。

- [×] The September 11th attacks **were occurred** in 2001. ➤ 受け身は不可
→ [○] The September 11th attacks **occurred** in 2001. ➤ 自動詞で使う

この他にも **increase** や **decrease** も受け身で使う人がいますが、能動態が一般的です。よって、**reduce** は「他動詞」、**occur** は「自動詞」で、「受け身で使わない」という 2 点を覚えておきましょう。

👑 第12位 — male と female は原則形容詞！

この2語は次のように「男性の」「女性の」という形容詞の用法が一般的です。

例) **male** students (男子学生) / **female** workers (女性従業員)

よって、man ⇒ male, woman ⇒ female への安易な言い換えは要注意です。「男性」「女性」と名詞で表現する場合は、man と woman を使います。

→ [○] More **women** [✗ **females**] are pursuing a career today in contrast with the past.

(昔に比べると、今日では、キャリアを求める女性が増えた)

ただし、male と female が名詞で使われる場合もあり、これもおさえておきましょう。特に専門的な以下の3つのケースがその例です。

① 動物の雄・雌と表す場合

例) **Males** attract **females** by making a sound. (雄は音を立てて雌を引き付ける)

② 統計上の男女 (フォーマルな用法。一般的には man と woman を使う)

例) the average life expectancy of **females** (女性の平均寿命)

③ 生物学上、男女の区別を明確にする場合

例) the genetic difference between **males** and **females** (男女の遺伝上の違い)

👑 第13位 — a number of = 「多くの」ではないので注意！

a number of = 「多くの」のような誤語を当てているテキストがありますが、これは誤りです。a number of は some や several の類義語で、「多くはないが一定数の、いくつかの」という意味なので、many との言い換えはできません。「多くの」としたい場合は、large や huge を付けて表現します。以下の例でしっかりと違いを確認しておきましょう。

・ **a number of** students : 何名かの学生 (≒ some, several)

・ **a large [huge] number** of students : 多くの学生 (≒ many)

👑 第14位 — コロケーションを意識して語彙習得を心がけよ！

コロケーション (collocation) とは「語と語の自然な組み合わせ、相性」のことを指し、語彙学習において非常に重要です。例えば、日本語で「引く」と「引っ張る」はほとんど同じ意味ですが、「風邪を引く」は言えても、「風邪を引っ張る」は誤った日本語です。これは単純に「風邪」と「引く」の相性がよく、「風邪」と「引っ張る」の相性は悪いからです。英語でも同じように、例えば「意見を述べる」は say an opinion ではなく give [express] an opinion と表現します。よって、語彙学習をする際は単語単体で覚えるのではなく、どのような語とよく結びつくか、という collocation を常に意識することが大切です。加えて、「誤りではないが使用頻度が低い組み合わせ」も避けるべきです。例えば「～に深く関係している」は、be deeply linked with [related to] ~ よりも be closely linked with [related to] ~ が自然なので後者で覚えるべきです。以下が IELTS で使う機会が多く、かつミスの多いコロケーションです。確認しておきましょう。

訳語	✗	○
健康を保つ	keep one's health	maintain one's health
問題を解決する	improve a problem	solve [address] a problem
関係を築く	make a relationship	build a relationship
自然と触れ合う	contact [touch] nature	commune [connect] with nature
子供を育てる	grow children	raise children
～に影響を与える	give an effect on ~	have an effect on ~
～に害を与える	give damage to ~	cause damage to ~
～の知識を得る	get knowledge of	acquire [gain] knowledge of
～する可能性が高い	be highly expected to	be highly likely

ちなみに Collocation 学習には次の2つが役立つので活用してください。

・ Online OXFORD Collocation Dictionary of English

➢ Oxford 大学出版の辞書です。オンラインで無料で利用可能です。

・ Academic Collocation List - PTE Academic

➢ イギリスの出版社 Pearson (ピアソン) が提供しているリストです。アカデミックな状況で必要な語彙が網羅されています。無料で PDF がダウンロード可能です。

◆ 第15位 — 勘違い「和製英語」に要注意！

ここでは IELTS で使う機会が多く、誤解して使いがちな和製英語 4 語をピックアップします。ニュアンスの違いを理解して運用するようにしましょう。

▶ ~にチャレンジする : [✗] challenge

challenge は動詞で使うと「[人が] ~ [意見・考え方など] に異議を唱える」という意味 (to question and refuse) になり、challenge the decision [the evidence] (その決定 [証拠] に異議を唱える) のように使われます。よって「新しいことに挑戦する」としたい場合は、決まり文句として **take on** [tackle] new challenges を使いましょう。

▶ ~をマスターする : [△] master

英語の master は「達人レベルに達する」という意味で、master English とすると大きさです。よって「一定の水準まで身につける」とする場合は **learn** が最も一般的で、ライティングでは少しフォーマルな **acquire** が好まれます。

・ learn [acquire] a foreign language [job skills] (外国語 [職業スキル] を身につける)

▶ 「メリットとデメリット」 : [△] merits and demerits

この 2 語は非常に使用頻度が低く、一般的ではありません。まず **merit** は名詞では、イギリスやオーストラリアなどの学校の成績における「優」の意味で使われます（アメリカでは Very good）。動詞だと **merit further investigation** (さらに調査するのが妥当である) のように「~するのは当然だ、~に値する」の形が一般的です。一方 **demerit** は、単語自体の使用頻度が非常に低いので、重要性は高くないと言えます。よって、「メリット」「デメリット」の意味では次の表現を使うようにしましょう。

・ advantages and disadvantages / benefits and drawbacks / positives and negatives / positive and negative aspects

▶ 「リストラ」 : [△] restructuring

restructuring は「再編、再構築」という意味で、体制やシステムの変更が主であり、通常人員削減は含みません。「リストラ、人員削減」とする場合は次の語を

用います。

・ redundancy (リストラ、解雇 : be made redundant すると「解雇される」となる)

▶ make mass redundancies (大量リストラを行う)

・ downsize (~を縮小する : 人員整理と事業規模の縮小を含む)

▶ downsize workforce (人員を削減する)

▶ due to factory closures and downsizing (工場閉鎖と事業縮小が原因で)

◆ その他 (番外編) — スペルは統一するべし！

イギリス英語、アメリカ英語、のどちらを使用しても構いませんが（例：transport / transportation）、スペルは一方で統一して書くようにしてください。特に使う機会が多く、使い分けが重要な特徴と代表例を以下に挙げておきます。いずれかに決めて対策を行いましょう。

違い	イギリス英語	アメリカ英語
our と or	behaviour / neighbour / endeavour	behavior / neighbor / endeavor
re と er	theatre / centre / metre	theater / center / meter
ce と se	practise (図)practice / licence / offence	practice (図)practice / license / offense
ae と e	aesthetic / archaeology	esthetic / archeology
ll と l	enrol / skilful / travelled / cancelled	enroll / skillful / traveled / canceled
se と ze	emphasise / analyse / organisation	emphasize / analyze / organization
文末の s	forwards / towards / onwards	forward / toward / onward
過去分詞	learnt / burnt / dreamt	learned / burned / dreamed
その他	programme / ageing / speciality / enquire / sceptical / judgement	program / aging / specialty / inquire / skeptical / judgment

以上で「重要文法+語彙」のレクチャーは終了です。お疲れさまでした。完璧に内容を吸収し、自然に運用できるまで少し時間がかかるかもしれません、何度も反復して確認し正確な文法と語彙力を高めていきましょう！